

桑名市における令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果概要

はじめに

全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策を検証・改善したり、学校における教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てたりするために実施されています。

令和7年度は、4月17日（木）に実施され、市内の小学校6年生（27校：1,163人）と、中学校3年生（9校：1,119人）が参加しました。今年度は、小中学生ともに国語、算数・数学、理科の3教科と質問調査が行われました。なお、中学校・理科は、オンラインによる調査（CBT）として実施されました。

桑名市における全体的な特徴

強み

- 知識及び技能を問う問題は、正答率が高い
- 小中学生ともに、国語科の記述問題において、全国平均と比べ、解答率が高い
- 小中学生ともに「算数・数学で学習したことを、普段の生活の中で活用できている」と肯定的に回答した割合が全国平均と比べ高い
- 国語科の「情報の使い方に関する事項」について、小中学生ともに正答率が全国平均と比べ高く、質問調査による ICT 機器の活用については、意欲的である

弱み

- 身につけた知識や技能を生かして、自分の考えをまとめて書くこと、表現することが引き続き課題
- 書かれている内容を正確に理解するだけに留まらない「読解力」（複数の資料等から、比較・考察すること、分析・解釈することなど）が課題
- 小中学生ともに、主体的な学びに関する項目、ウェルビーイングに関する項目に関して、肯定的に回答した割合が全国平均と比べ低い
- 授業時間以外の学習時間、読書時間が、全国平均と比べ短い

次ページより各教科、児童生徒質問、学校質問の結果から、桑名市の特徴等を紹介いたします。問題の内容等に関しては、『国立教育政策研究所教育課程研究センター』HPにも掲載されていますので、ご参照ください。

<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>



I 教科に関する調査結果

各教科の平均正答率

*全国、三重県、桑名市いずれも公立校のみの結果を集計した値(単位は%)

*平成29年度より全国値以外は、小数点以下を四捨五入した整数値での公表

		国 語	算数・数学	理 科
小学校	桑名市	67	57	56
	全国	66.8	58.0	57.1
	三重県	66	57	56
中学校	桑名市	54	51	510※
	全国	54.3	48.3	503※
	三重県	53	47	498※

※中学校理科については、CBT 調査により、IRT スコアを表示

※ 中学校 理科における IRT スコアについて

令和7年度中学校 理科は、CBT(コンピュータを活用したオンライン調査)で実施され、IRT(項目反応理論)に基づき、スコアが算出されています。IRT スコアは 500 を基準とし、基準との差で比較します。

IRT(Item Response Theory:項目反応理論)とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。国際的な学力調査(PISA、TIMSS など)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFL など)でも採用されています。

《IRT を導入するメリット》

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できるため、次のようなメリットがあります。

1. より正確な学力比較が可能になる

IRT では、「簡単な問題ばかりのテストで満点」、「難しい問題ばかりのテストで半分正解」といった2つの結果も、同じ尺度で正確に比較できるようになります。

2. より多くの情報を得られる

生徒一人ひとりに異なる問題を出題する設計が可能になり、より多くの問題で生徒の学力を多角的に評価することができます。

3. 学力推移の把握が容易になる

異なる時点、異なるテストでも生徒の学力を同じ尺度で比較できるため、経年変化を正確に追跡することができます。生徒の学力向上の状況をより詳細に把握し、効果的な教育改善に繋げやすくなります。

学習状況と児童生徒質問調査の相関のグラフについて

各教科の桑名市における特徴や質問調査結果の分析において、一部、児童生徒質問調査の回答状況と各教科の平均正答率・IRT スコアのデータを組み合わせて、関係性を探るためのクロス集計のグラフを示しています。それぞれの項目を選択した児童生徒の平均正答率を表しています。このグラフからは、学習習慣が学力にどのように影響しているのかを知ることができます。

なお、回答状況のグラフについて、端数処理の都合上、合計が 100 にならないことがあります。

小学校算数

強み

◎伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量
を選ぶ問題
〔思考・判断・表現/選択式〕

正答率
約8割

【大問 4】の概要】

ハンドソープの内容量を題材にして、問題解決のために、伴って変わる2つの数量の関係を把握し、思考する問題。

〔設問(1)〕

新品のハンドソープの容量が分かっているとき、何プッシュで空になるのかを調べるために、必要な数量が何かを選択する。

多くの児童が、新品のハンドソープが空になるまでに、総量の他に「1プッシュ分の量」が必要なことを理解していました。

保健委員のおさひさんたちは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話しています。



ハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL入っています。新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240 mLの他に何がわかればよいですか。下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- | | | |
|---|-----------------------|------|
| ア | 1プッシュ分のハンドソープの液体の量 | 3 mL |
| イ | 1プッシュするときにおす長さ | 2 cm |
| ウ | おさひさんが1日にプッシュする回数の平均 | 8回 |
| エ | おさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均 | 60秒 |

弱み

▲五角形を2つに分割して面積を求めるときの方法を記述する問題
〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率
約3割

【大問 2】の概要】

図形について学習してきたことをふり返って考える場面において、図形を構成する要素の関係に着目し、図形の計量について考察する問題。

〔設問(4)〕

五角形を2つの基本図形に分割して面積を求めるとき、直線の引き方を選択した上で、必要な長さを調べて面積の求め方を記述する。※計算する必要はない。

「2つの図形に分ける1本の直線」を選択し、面積の求め方を言葉の式で記述できているものの「必要な長さ」を使った記述ができていない児童が4割以上いました。

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

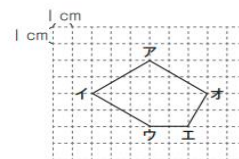


図3

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。

わかな：私は、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。

ゆうた：私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

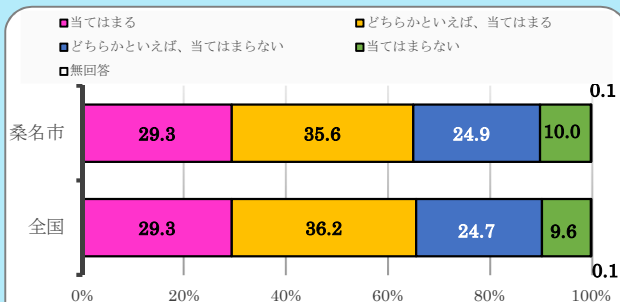
わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何cm²になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

■ (児童質問調査より)算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか

【学習状況(算数)との相関について】



質問調査にて「どのように考えたのか説明する活動をよく行っている」と肯定的に答えた児童の平均正答率が高い傾向にあります。

小学校理科

強み

◎実験の結果から、他の条件での結果を予想し、表現する問題
〔思考・判断・表現/選択式〕

正答率
約8割

【大問 1】の概要

赤玉土の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、実験の方法を発想したり、結果を基に考察したりしながら問題解決に向けて思考する問題。

〔設問(3)〕

【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件において、水がしみ込む時間を予想し、理由と合わせて選択する問題。

多くの児童が【結果】から粒の大きさとしみ込む時間の関係を適切に捉えることができていました。

あかりさんたちは実験を行い、得られた【結果】を下のように整理しました。

【結果】 〈赤玉土に水がしみこむ時間〉		
	コップA (大きいつぶ)	コップB (小さいつぶ)
1 回目	3 秒	11 秒
2 回目	4 秒	10 秒
3 回目	4 秒	11 秒

あかりさんは、【問題に対するまとめ】を考えています。

【問題に対するまとめ】は、「水のしみこみ方は、赤玉土のつぶの大きさによって、ちがいがちがある」といえるね。



これまでわかったことを使えば、中くらいのつぶの赤玉土に、水がしみこむ時間を予想できそうだね。



弱み

▲差異点や共通点をもとに、新たな問題を見だし、表現する問題
〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率
3割以下

【大問 3】の概要

花のつくりの学習において、花のつくり、花粉の観察、種子の発芽の条件などについて、観察、実験において問題解決に向けて思考する問題。

〔設問(4)〕

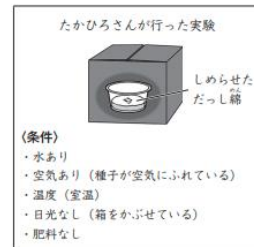
レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした新たな問題について記述する。

<条件>から、日光または肥料のいずれかを記述しているものの、レタスの発芽に関する疑問を示す記述ができていない児童が約4割いました。

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。



たかひろさんが行った実験
しめさせただし鉢
〈条件〉
・水あり
・空気あり（種子が空気にふれている）
・温度（室温）
・日光なし（箱をかぶせている）
・肥料なし

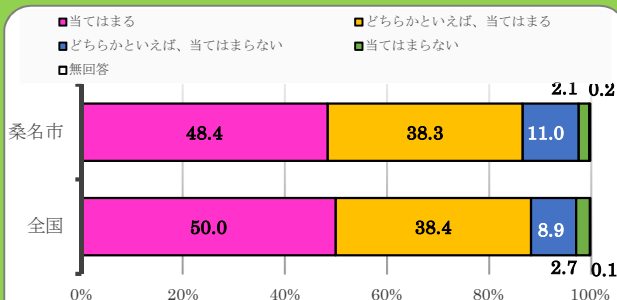
水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



（4）てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

■（児童質問調査より）理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか

【学習状況（理科）との相関について】



質問調査にて「観察や実験の結果から分かったことを考えている」と肯定的に答えた児童の平均正答率が高い傾向にあります。

◎表現の効果について、根拠を明確にして考え、適切なものを選ぶ問題

〔思考・判断・表現/選択式〕

正答率
8割以上

【大問 3】の概要】

文学的な文章（島崎藤村「二人の兄弟」）を読み、叙述を基に登場人物の性格を捉えたり、語句の意味を理解したりするとともに、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える問題。

〔設問一〕

冒頭の三文を読み、物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する。

多くの生徒が、冒頭で、榎木の実に関する読者の経験を問う文を重ねることによって「榎木の実にまつわる物語に関心を持たせる効果」があることを捉え、適切に選択できていました。

【正答】
2 語り手が読者に、榎木の実に関する経験を問うことによって、榎木の実にまつわる物語に関心を持たせる効果。

【本文より】
皆さんは榎木の実を拾ったことがありますか。あの木の落ちている木の下へ行ったことがありますか。あの香ばしい木の実を集めたり食べたりして遊んだことがありますか。

▲自分の書いた文章を推敲し、適切に修正する問題

〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率
約3割

【大問 4】の概要】

職場体験活動のお礼の手紙を書く場面において、手紙の下書きを読んで、漢字の誤りを見付けて正しく直したり、手紙の内容が読み手によりよく伝わるように、修正した方がよい部分を見付けて文章を整えたりする問題。

〔設問二〕

さらに推敲を重ねようという場面において、下書きのどの部分をどのように修正するか、条件にしたがって記述する。

条件1：特に修正したほうがよいと考える部分を一つ選ぶ。

条件2：修正する際は修正箇所を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横にどのように直すかを書く。

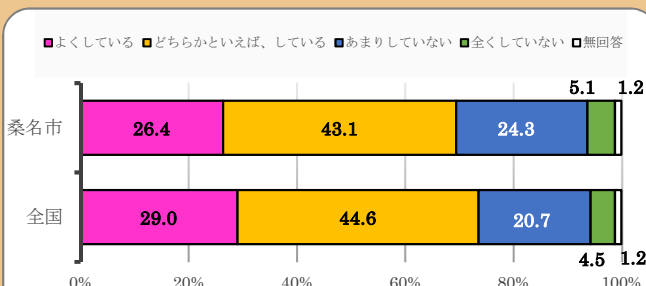
条件3：修正したほうがよいと考えた理由を具体的に書く。

修正したほうがよい理由について、説明することはできているが、実際に適切に修正することができていない生徒や適切な修正ができていないが、理由を説明できていない生徒が約3割いました。

手紙の下書きの一部
先日、
さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくださり、
はじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。大野さん
この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしをもって
いなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びら
が落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通
して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

- （生徒質問調査より）国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか

【学習状況（国語）との相関について】



質問調査にて「自分が書いた文章を、読み手の立場に立って整えている」と肯定的に答えた生徒の平均正答率が高い傾向にあります。

◎グラフから必要な情報を読み取り、選択する問題

【知識・技能/選択式】

正答率
7割以上

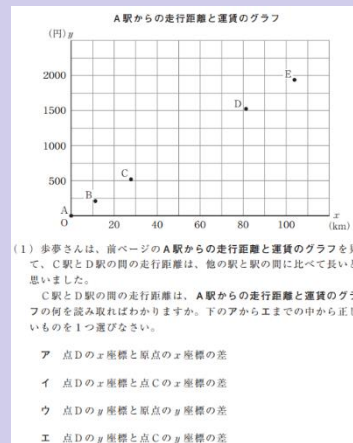
【大問 8 の概要】

走行距離と運賃の関係について調べ、その結果をもとに新しい駅までの運賃を予測する場面において、問題解決の方法について考察し、判断する問題。

【設問(1)】

グラフの何を読み取れば、C 駅と D 駅の間の走行距離がわかるのか、適切なものを選択する。

多くの生徒が、事象に即して、グラフから必要な情報を読み取り、適切に選択することができていました。



▲式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、 数学的な表現を用いて説明する問題

【思考・判断・表現/記述式】

正答率 3割以下
無解答率 2割以上

【大問 6 の概要】

連続する2つの3の倍数の和について考える場面において、予想した事柄が成り立つかどうかを判断し、成り立つ理由や成り立たない理由を数学的に説明したり、条件を変えることで、統合的・発展的に考察し判断したりする問題。

【設問(2)】

連続する2つの3の倍数の和について、計算して変形した式を読み取り、成り立つ事柄を見だし、説明する。

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

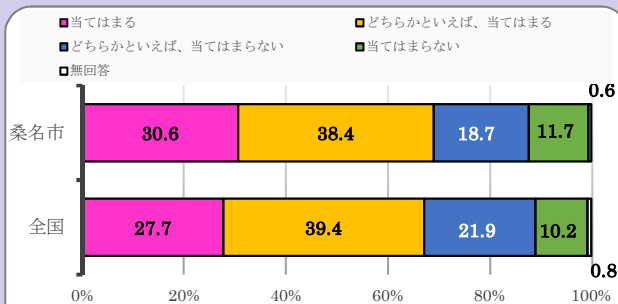
結菜さんの式の変形の $3(2n + 1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n + 1) + 1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「は」という形で書きなさい。

他の問題に比べて無解答が多く、2割以上ありました。
また、成り立つ事柄ではあるものの、変形した式から読み取ることができない事柄を記述している生徒や成り立たない事柄を記述している生徒が2割以上いました。

■ (生徒質問調査より) 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかっていることを理解することができますか

【学習状況(数学)との相関について】



質問調査にて「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで理解できる」と肯定的に答えた生徒の平均正答率が高い傾向にあります。

中学校理科

今年度の中学校 理科の調査は CBT による調査のため、生徒により問題構成が異なります。
市の特徴は、全生徒共通で取り組んでいる大問 11 から問題を取り上げてお伝えします。

【大問 Ⅰ の概要】

水をテーマに科学的に探究する場面において、課題を設定し、探究したことをまとめ、振り返る際に、身近な自然の事物・現象について、複数の領域を横断して多面的、総合的に思考する問題。

強み

◎発表をみて、探究の過程におけるふりかえりを記述する問題

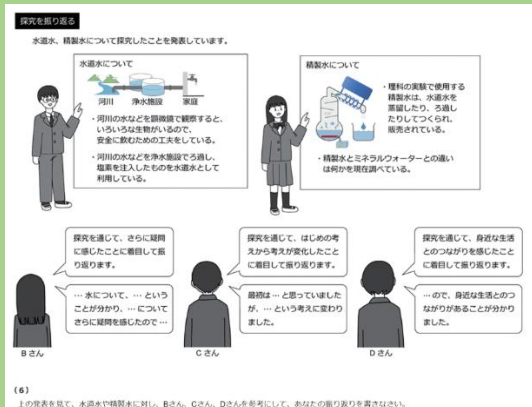
〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率
約8割

〔設問(6)〕

水道水と精製水に関する2人の発表をみて、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現し記述する。

Cさんの視点を参考に、はじめの考えから変化したことを中心に、水道水と精製水に対し
た振り返りについて記述している生徒が4割以上いました。



弱み

▲身の回りの事象から生じた疑問を解決するための
課題を設定する問題 [思考・判断・表現/記述式]

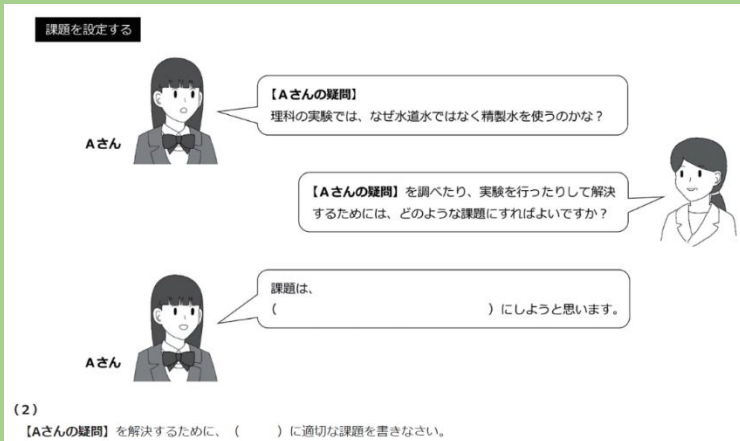
〔思考・判断・表現/記述式〕

正答率 約4割

〔設問(2)〕

「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する。

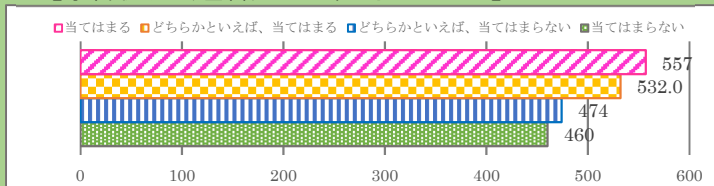
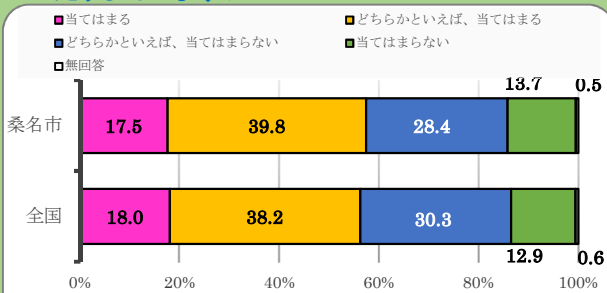
【Aさんの疑問】を繰り返し記述している生徒や水道水と精製水の両方の性質に着目しているものの【Aさんの疑問】を解決しようとする内容を記述できていない生徒が約4割いました。



■ (生徒質問調査より)自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか

【学習状況（理科）との相関について】※IRT スコアで表記

【学習状況（理科）との相関について】※IRT スコアで表記



質問調査にて「理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしている」と肯定的に答えた生徒の平均スコアが高い傾向にあります。

質問調査より・教科学習に関わって

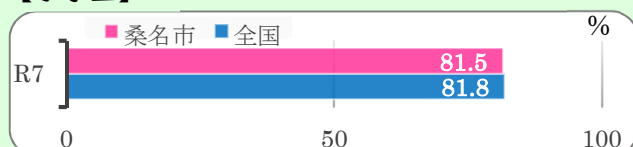
○国語の授業に関わって

児童質問調査より「授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている」と肯定的に回答した小学生の割合は8割を超えています。

生徒質問調査より「授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている」と肯定的に回答した中学生の割合は7割を超え、わずかながら全国平均を上回っています。

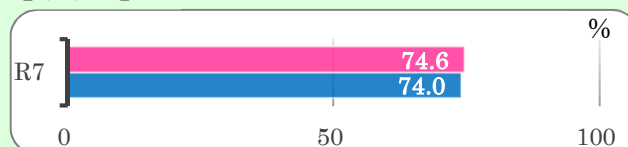
■ 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている

【小学生】



■ 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている

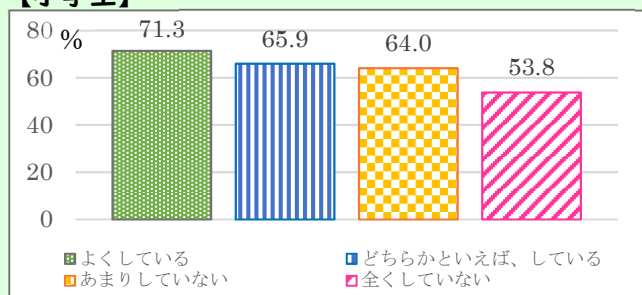
【中学生】



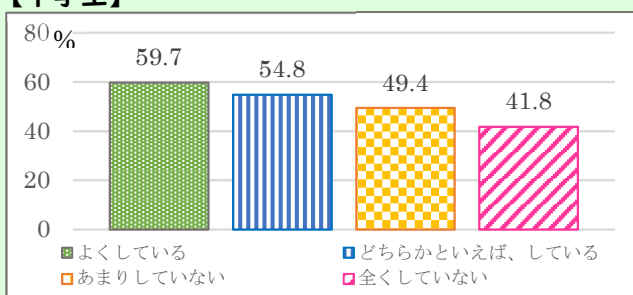
学習状況(国語)との相関について

上記の質問に対し、それぞれ肯定的に回答している児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

【小学生】



【中学生】

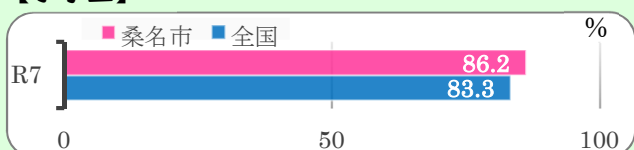


○算数・数学の授業に関わって

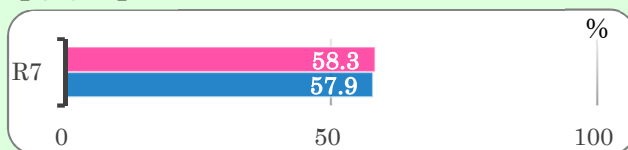
「算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で約8割、中学生で6割弱となっています。小中学生ともに全国平均を上回っています。

■ 算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている

【小学生】



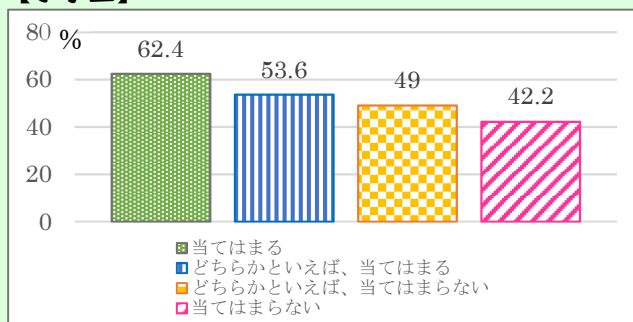
【中学生】



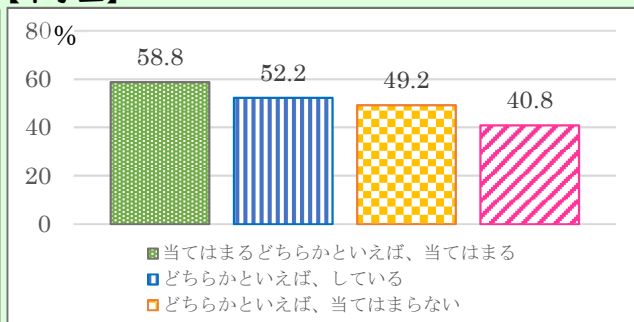
学習状況(算数・数学)との相関について

上記の質問に対し、それぞれ肯定的に回答している児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

【小学生】



【中学生】

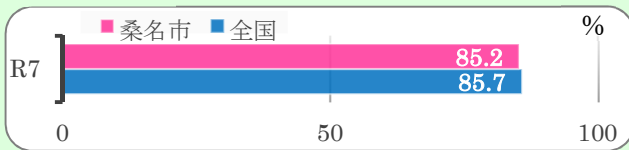


○理科の授業に関わって

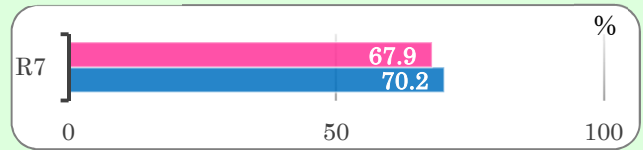
「理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てている」と肯定的に回答した児童の割合は小学生で8割を超え、中学生は約7割となっています。小中学生ともに、全国平均を下回っています。

■ 理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てている

【小学生】



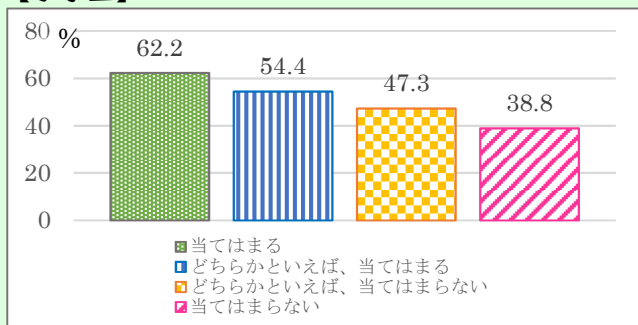
【中学生】



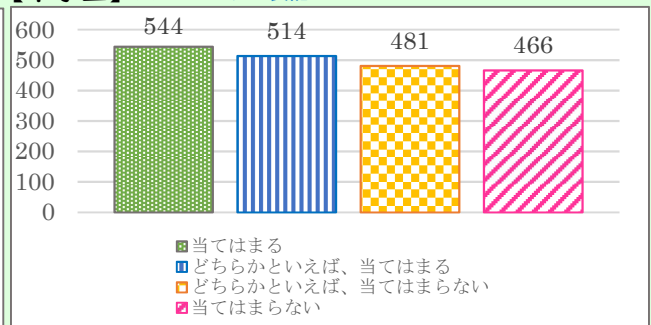
学習状況(理科)との相関について

上記の質問に対し、それぞれ肯定的に回答している児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

【小学生】



【中学生】 ※IRT スコアで表記



「がんばり」 発見！！

このコーナーでは、全国や県の平均正答率との比較、桑名市の経年的な課題等から、桑名の児童生徒にがんばりがみられたことを紹介しています。

経年的な課題である「図形」領域

小学生調査時から 正答率 UP!!

令和2年度から必修化されたプログラミング学習は、総合学習の時間や技術科の学習を中心に学びを進めています。一人一台端末を活用し、教科横断的に育むプログラミング的思考の力が、数学的思考と連なり、経年的な課題であった「図形」の領域において、「図形」を関連させた問題、全国や県よりも正答率が高い結果となりました。

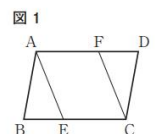
R4 調査結果より

小学校算数

プログラミング的思考を活かし、図形の性質の理解に深まりが見られました！

中学校数学

- ⑨ 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、BE = DFとなる点E、Fをそれぞれとります。このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。



証明 1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $AF \parallel EC$ ……①
 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②
 仮定より、
 $DF = BE$ ……③
 ②、③より、
 $AD - DF = BC - BE$ ……④
 ④より、
 $AF = EC$ ……⑤

①、⑤より、
 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形AECFは平行四辺形である。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

桑名市では、算数・数学の「図形」領域について、経年的に課題とされてきました。近年では、改善傾向にはあります。

今年度の中学3年生は、令和4年度に小学6年生として、本調査に参加しており「プログラミング的思考を活かし、図形の性質の理解に深まりが見られる」として、本コーナーでも紹介しました。

今年度の調査では、さらに全国平均と比べ、領域としての正答率が高い結果となり、小学校で学んだ知識を中学校でも活用できている結果となり、がんばりが見られました。

Ⅱ 児童生徒質問の調査結果

児童生徒質問の調査とは、該当学年の児童生徒を対象にしたオンラインによるアンケート調査で、学習状況や生活状況について回答しています。

これらの回答から見えた結果をもとに、桑名市で大切にしている項目について児童生徒の特徴的な姿を紹介します。※グラフ内の数値は桑名市・全国の児童生徒数を100としたときの肯定的に回答している児童生徒の割合（％）

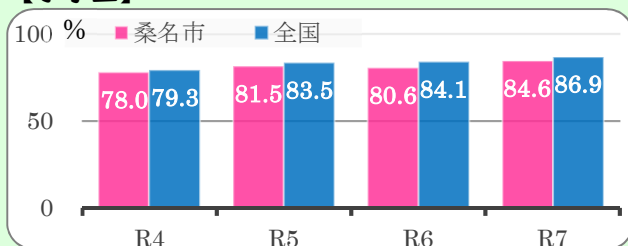
児童生徒の ウェルビーイングに関わって

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的によい状態であることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものです。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的によい状態であることを含む包括的な概念です。

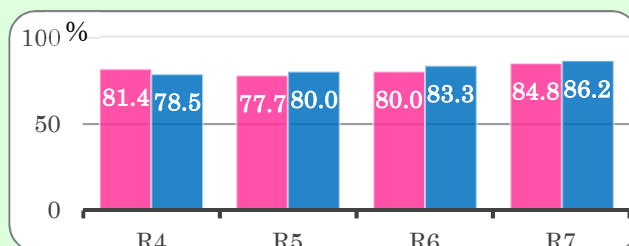
○自分には良いところがある

「良いところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに8割を超え、昨年度との比較において、小中学生ともに上昇しました。しかし、全国平均よりやや低い傾向が続いています。

【小学生】



【中学生】



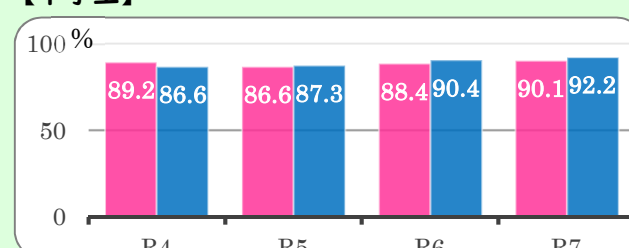
○先生は、よいところを認めてくれている

「先生は、よいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに9割を超え、高い傾向にあります。

【小学生】



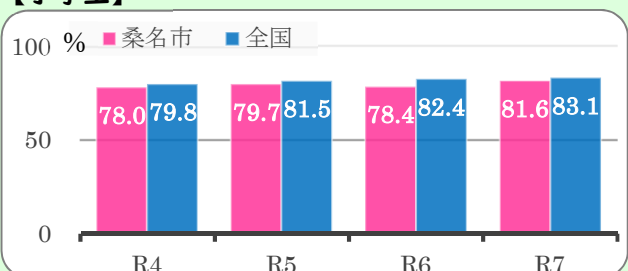
【中学生】



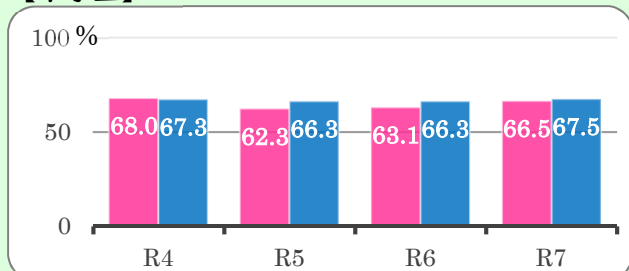
○将来の夢や目標を持っている

「夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに上昇しました。しかし、全国平均よりやや低い傾向が続いています。

【小学生】



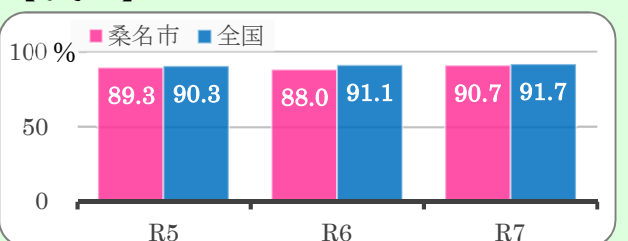
【中学生】



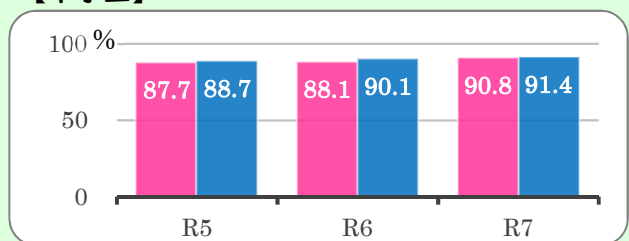
○友達関係に満足している

「友達関係に満足している」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、9割を超えており、おおむね満足している傾向にあります。（令和4年度は同質問がありませんでした。）

【小学生】



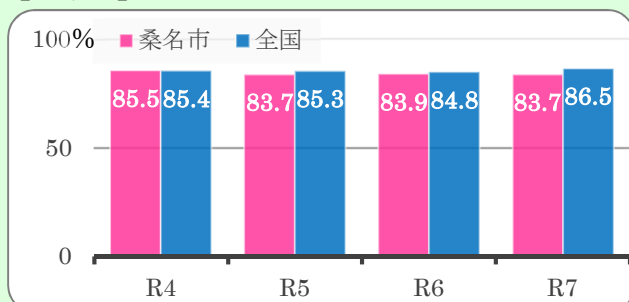
【中学生】



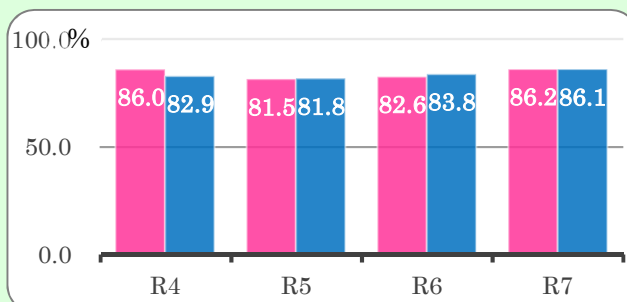
○学校に行くのは楽しい

「学校に行くのが楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに8割を超えており、中学生は昨年度より上昇しました。

【小学生】



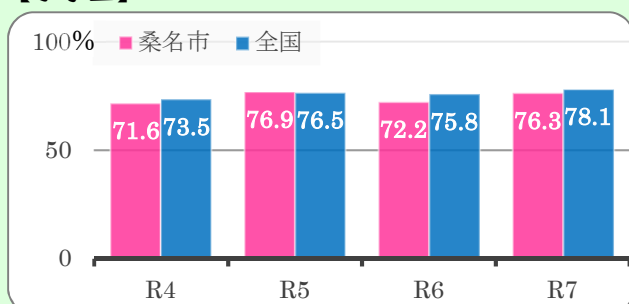
【中学生】



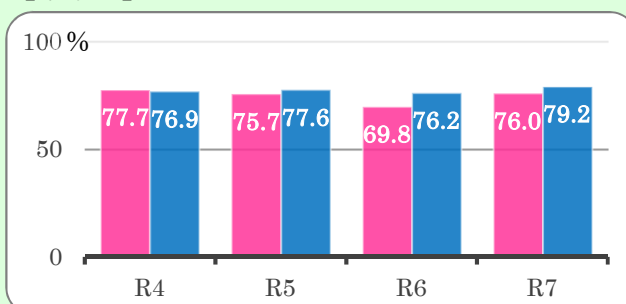
○自分と違う意見について考えるのは楽しい

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに昨年度より上昇しました。

【小学生】



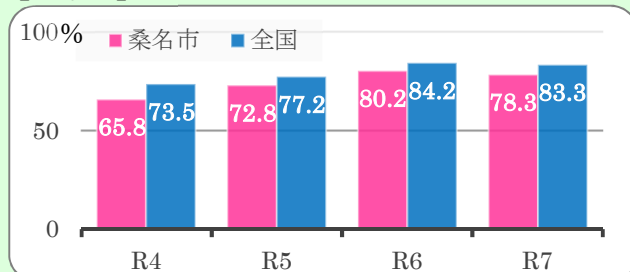
【中学生】



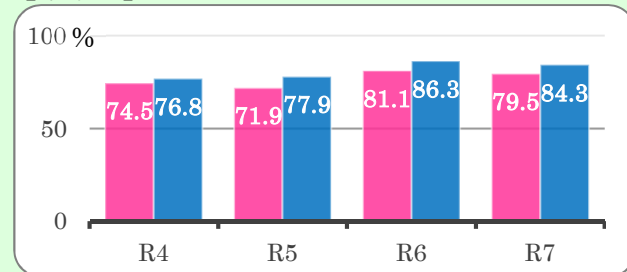
○学級をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決める

「学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均よりも低い傾向が続いています。

【小学生】



【中学生】



子どもたちがウェルビーイングを実現させていくためには、一人ひとりが自分のよさや可能性を認識することが大切です。学校では、各教科・特活・総合的な学習の時間等を通して、多様な価値観の友人と話し合い、協働し、課題を解決する体験を積み重ね、将来に必要な力をつけています。

本市の児童生徒のウェルビーイングに関する質問調査結果の傾向として、全国平均と比べ低いことが挙げられます。学校教育の充実とともに、家庭・地域の中で、子どもたちの生きがいや充足感の向上を図ることが大切です。これまで以上に、子どもの状況を把握しながら、家庭・地域との連携を強化していきます。

コラム

家族や友人など、身近な人たちからありのままの自分を認めてもらい、受け入れてもらう経験の積み重ねが、子どもたちの自尊感情や自己肯定感を育てます。

学校では「人権フォーラム」や「学級フォーラム」などの取組を通して、子どもたちが互いの思いや考えを出し合い、受け止め合える場づくりを進めています。そして、悩みや失敗も含めて、自分や他者の存在そのものを大切にするという視点を育てています。

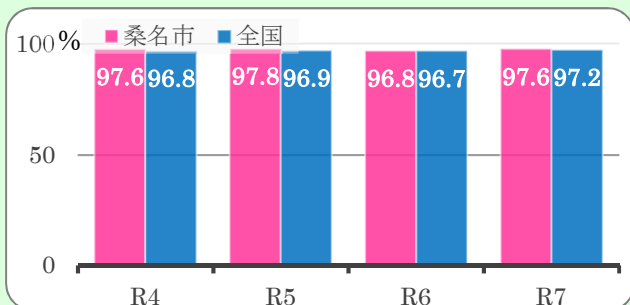
また、こうした取組を通して、子どもたちが日常の中で対話を重ね、身近な課題を自分たちで解決しようとする経験を積み上げていくことも大切にしています。これらの学びは、自らの生き方を選択するための土台となるものです。

今後も子どもたち一人ひとりが自分の存在を肯定し、他者との関わりの中で成長していけるような環境づくりに取り組んでいきます。

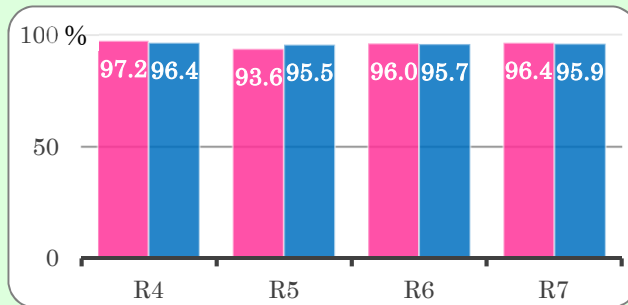
〇いじめはいけないと思う

「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに9割を超える状況が続いており、昨年度より上昇しました。一方で、そう感じていない児童生徒が一定数います。

【小学生】



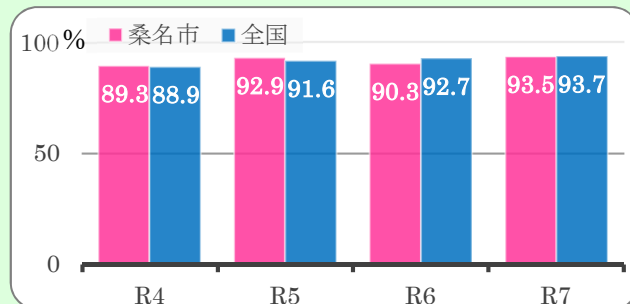
【中学生】



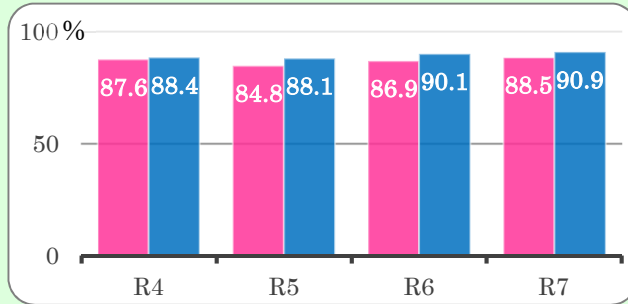
〇人が困っているときは、進んで助ける

「人が困っているときは、進んで助ける」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で9割を超え、中学生でも8割を超えています。小中学生ともに昨年度より上昇しました。しかし、特に中学生で全国平均を下回る傾向が続いています。

【小学生】



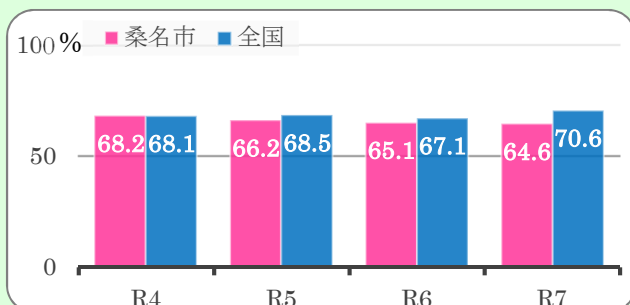
【中学生】



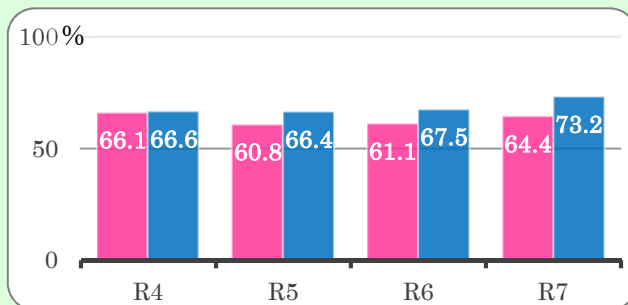
〇困りごとや不安がある時に、いつでも相談できる

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は昨年度よりも低下し、中学生は昨年度より上昇しました。小中学生ともに7割以下に留まっており、全国平均より低い傾向が続いています。

【小学生】



【中学生】



各校では、毎年4月、11月の「いじめ防止強化月間」を中心に、仲間とともに問題を解決しようとする子どもたちの自発的・自主的ないじめ防止に向けた取組をおこなっています。児童会や生徒会を中心とした自治的活動、仲間づくりや自己有用感を高めることを目的とした授業・校内活動を通して、いじめを許さない心と、その思いを行動に移す力を児童生徒の中に育てることで、いじめを生まない環境を築き、いじめの未然防止や早期発見、早期対応に努めています。

また、困りごとや不安を抱える児童生徒が安心して相談できるよう、教職員との関係づくりの他に、専門スタッフ（スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールハートパートナー等）を含めた教育相談体制を整えるとともに、専門スタッフの研修会をおこなっていくことで、チーム学校として、よりよい支援ができるよう、継続して取り組んでいます。

学校の授業時間以外の使い方

○学校の授業時間以外の勉強時間

平日1日当たりの勉強時間は、小学生については「30分以上」「1時間以上」と回答した児童が合わせて約6割です。勉強時間は、全国平均と比べやや短い傾向にあります。

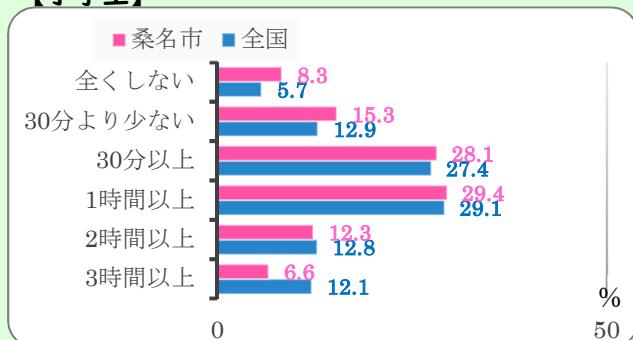
中学生は「1時間以上」「2時間以上」と回答した生徒が合わせて5割を超え、全国平均とほぼ同等の分布となっています。1時間以上勉強している生徒が多いことが分かります。

学校が休みの日の勉強時間については、小中学生ともに「全くしない」と回答した児童生徒が全国平均を上回っています。

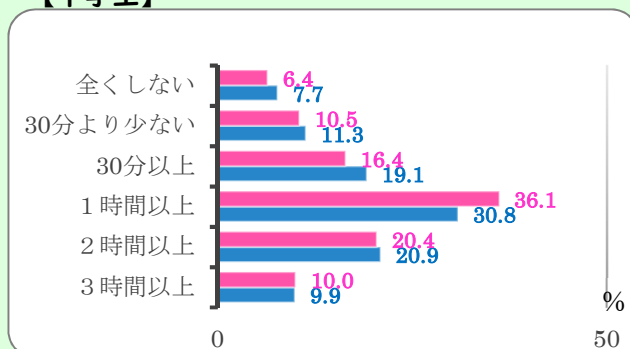
■学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

《普段(月曜日から金曜日)》

【小学生】

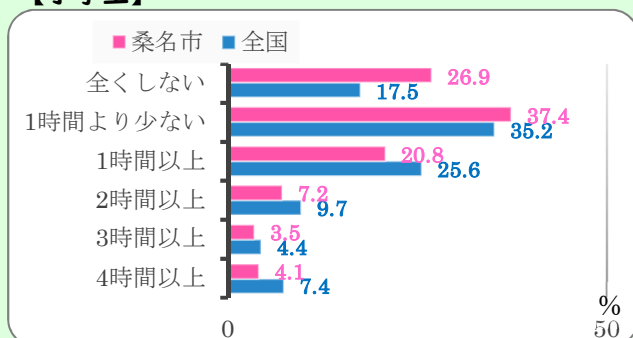


【中学生】

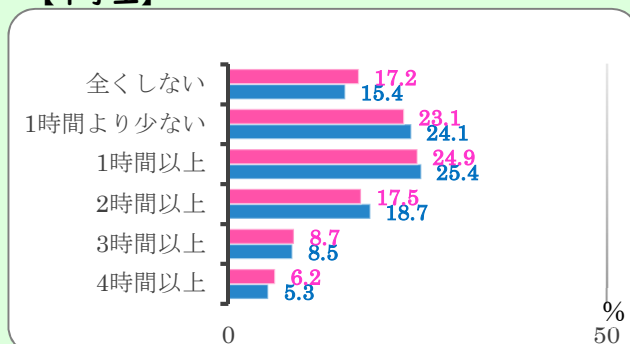


《土曜日や日曜日など学校が休みの日》

【小学生】



【中学生】

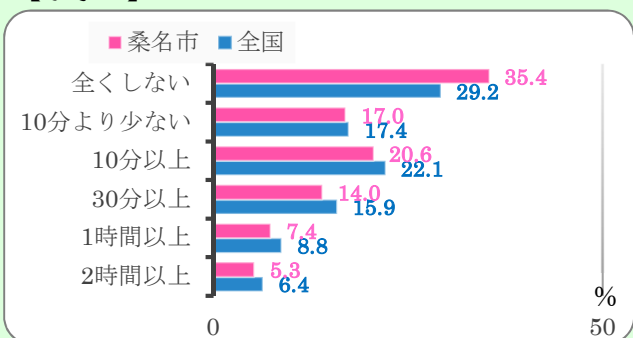


○学校の授業時間以外の読書時間

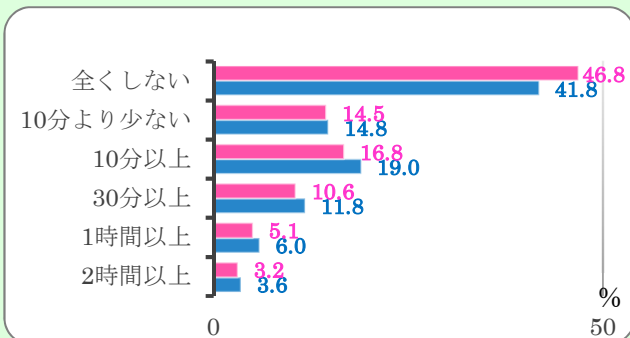
平日1日当たりの読書時間について「全くしない」と回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに全国平均より多いことがわかります。

■学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、マンガや雑誌は除く)

【小学生】



【中学生】



授業時間以外の勉強時間の使い方は「どれだけ長い時間を学習等に使えるか」よりも「授業時間以外の時間をどんなことに使うか」が大切になってきます。授業内容の予習や復習、e ライブラリ(デジタルドリル)等、授業と連動するような家庭学習を取り入れ、授業時間以外の時間の使い方をより質の高いものになるよう取り組んでまいります。

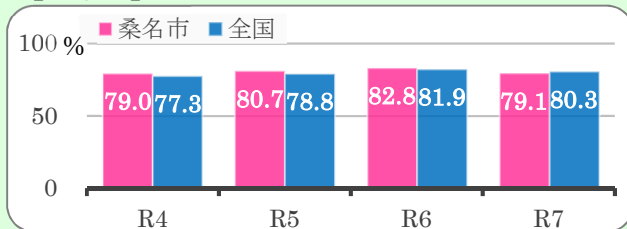
また、読書活動をする児童生徒の正答率は「全くしない」と回答した児童生徒よりも高い傾向にあるため、今後も学校の読書活動の充実を図るとともに、家庭読書の取組を推進してまいります。

○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

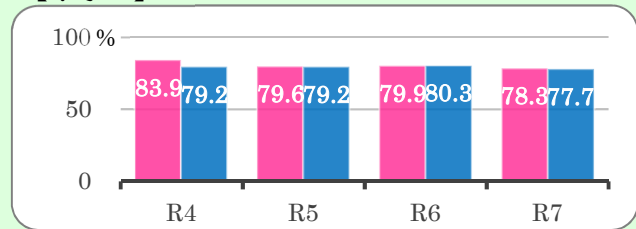
各教科の授業では、学習の結果のみならず「学習者が知識を相互に関連付けて深く理解する」「問いを見出して解決策を思考する」「考えをもとに表現する」といった、学習の過程を重視しています。そして、学習者である子どもたちには、自らの学習を調整しながら、粘り強く取り組むことが求められています。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに昨年度より低下しました。中学生は、全国平均を上回りました。

■ 前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

【小学生】



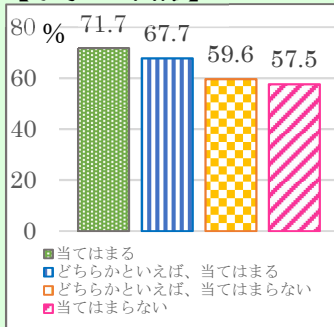
【中学生】



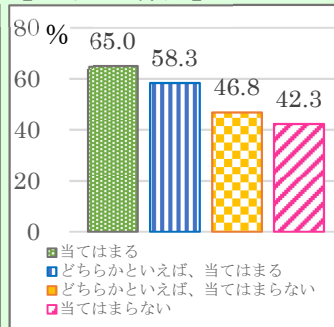
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

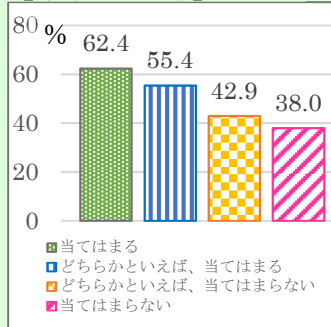
【小学生・国語】



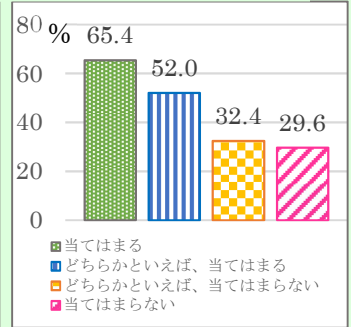
【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】

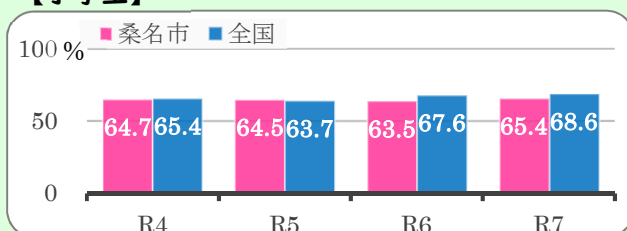


○授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している

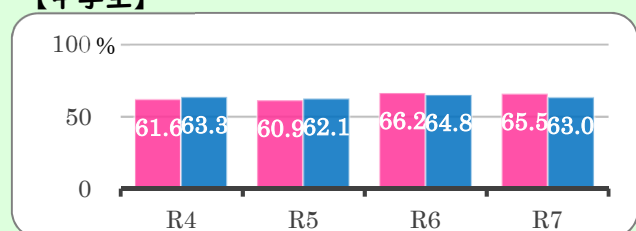
「授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は昨年度より上昇しました。中学生は昨年度より低下しましたが、昨年度と同様、全国平均を上回っています。

■ 前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

【小学生】



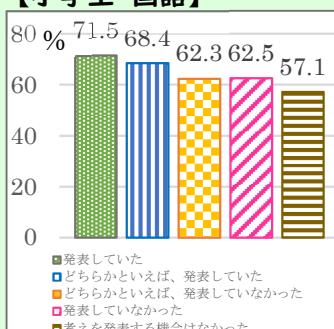
【中学生】



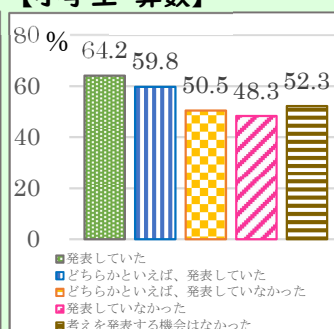
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

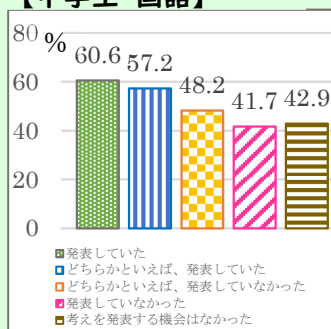
【小学生・国語】



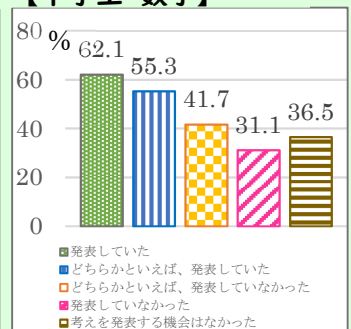
【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】

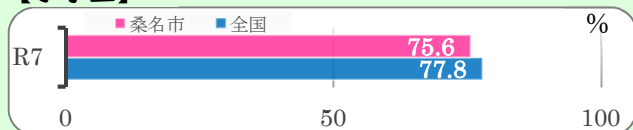


○学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動をしている

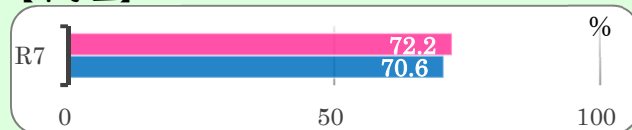
「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と肯定的に回答した児童生徒は、小中学生ともに7割を超えています。中学生は、全国平均を上回っています。

■ 前学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

【小学生】



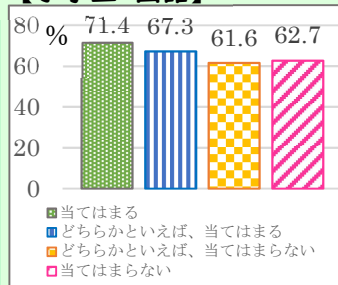
【中学生】



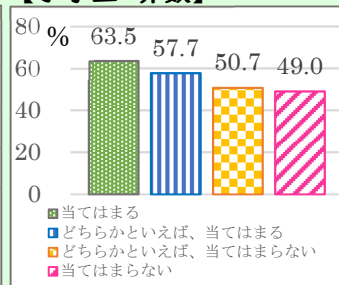
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

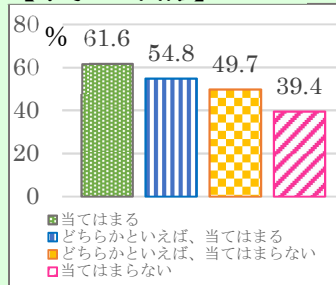
【小学生・国語】



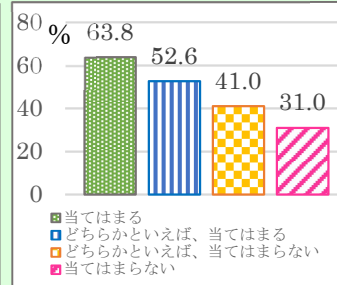
【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】

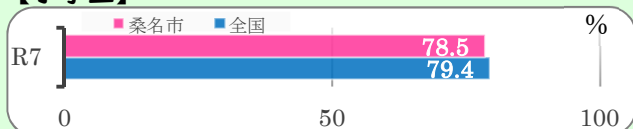


○学びのふりかえりをしている

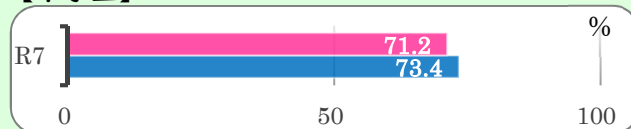
「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と肯定的に回答した児童生徒は、小中学生ともに7割を超えていますが、全国平均を下回っています。

■ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

【小学生】



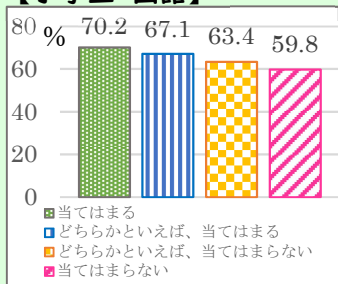
【中学生】



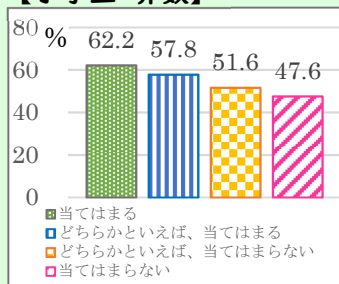
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

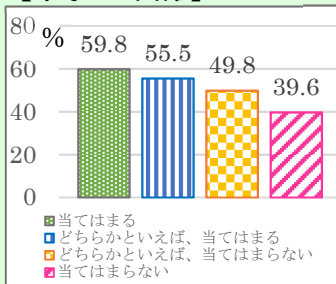
【小学生・国語】



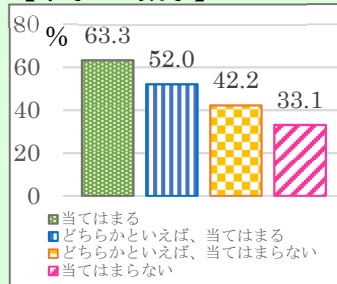
【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】



本市では、小中一貫教育の「9年間を見通した学び」の観点から、1時間の授業や単元の「振り返り」を行うことで、次の学びへの連続性や系統性を意識させることに重点をおいているものの、学習内容の十分な理解につながっていないことが明らかとなりました。

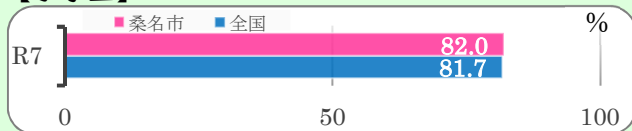
児童生徒が学習内容の理解を実感できるよう、自分の考えをまとめたりアウトプットしたりする活動を積極的に取り入れるなどの授業改善を図り、ていねいな学習状況の把握に努めてまいります。

○自分で学び方を考えて、工夫する

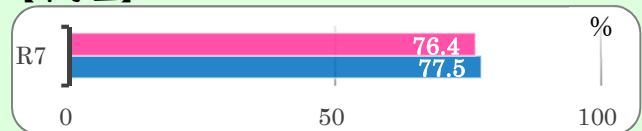
「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と肯定的に回答した児童生徒は、小中学生ともに約8割となっており、小学生は全国平均を上回っています。

■ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

【小学生】



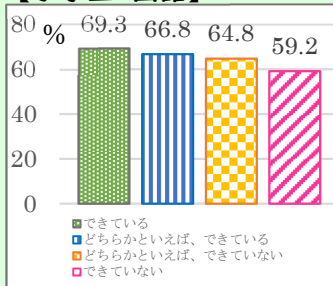
【中学生】



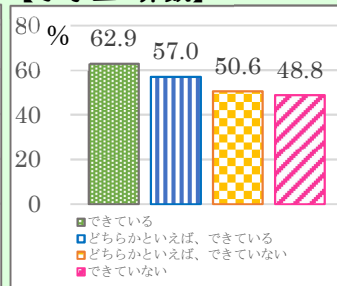
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

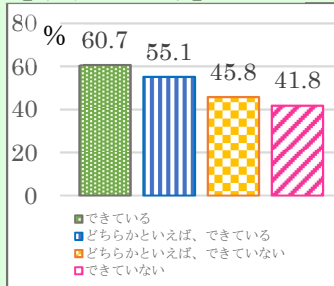
【小学生・国語】



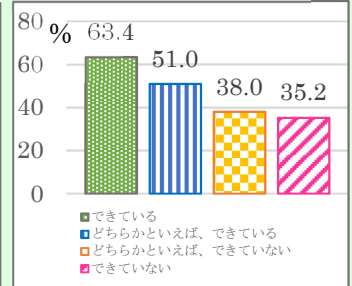
【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】

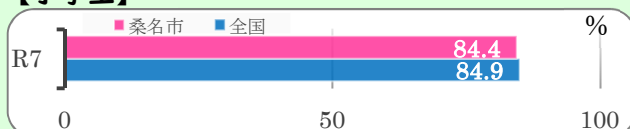


○友だちとの話し合いを通じて、自分の考えを深める・新たな考え方に気付く

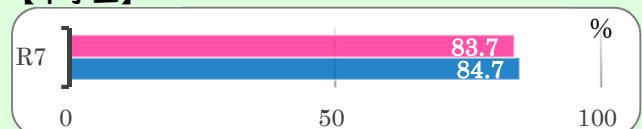
「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と肯定的に回答した児童生徒は、小中学生ともに全国平均を下回っています。

■ 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

【小学生】



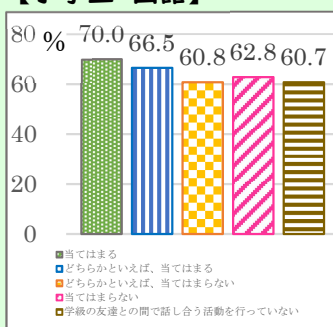
【中学生】



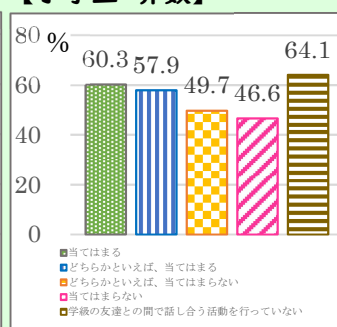
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

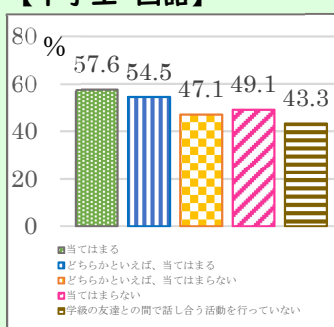
【小学生・国語】



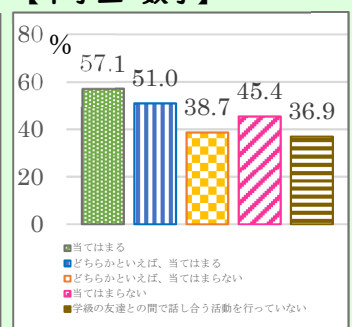
【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】

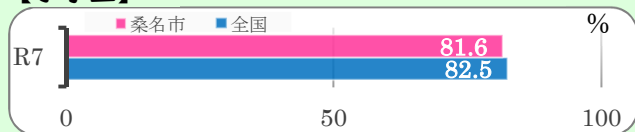


○授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけることができる

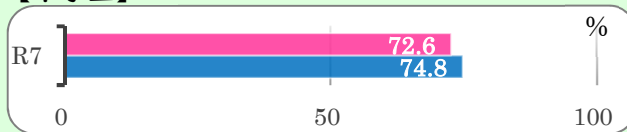
「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」と肯定的に回答した児童生徒は、小学生は約8割、中学生は約7割となっており、小中学生ともに全国平均を下回っています。

■ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか

【小学生】



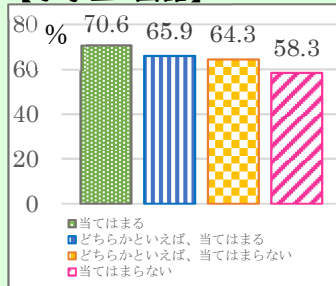
【中学生】



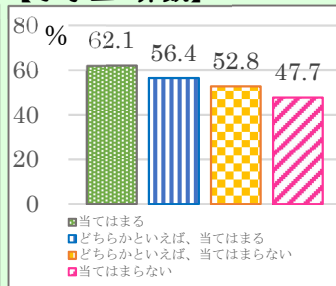
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

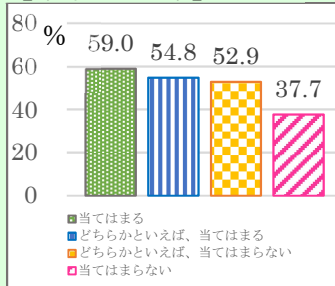
【小学生・国語】



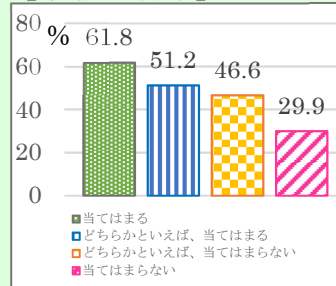
【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】



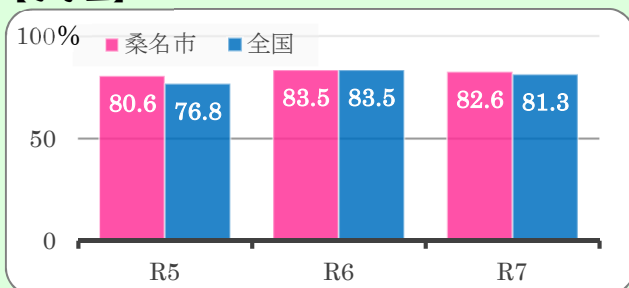
○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

学習指導要領では、主体的に地域や社会と関わり、持続可能な社会を形成することが求められています。「地域や社会をより良くするために何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は昨年度と比較し、中学生は上昇しました。

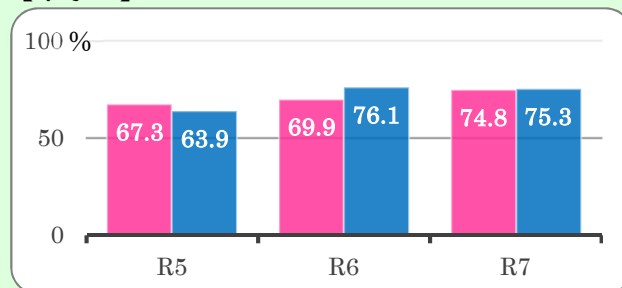
(令和4年度は質問の文言が異なるため、グラフからは除いています。)

■ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

【小学生】



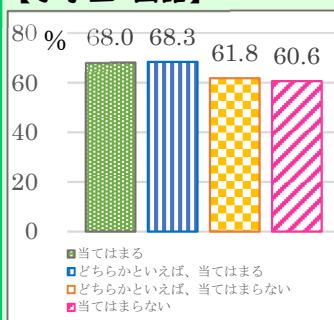
【中学生】



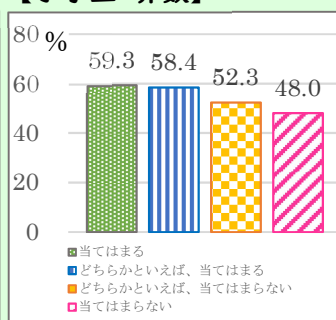
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「地域や社会をより良くするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

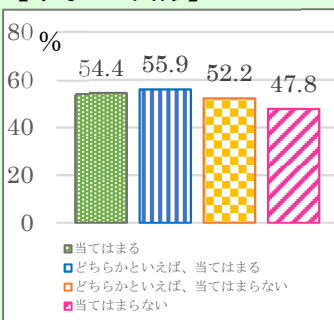
【小学生・国語】



【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】

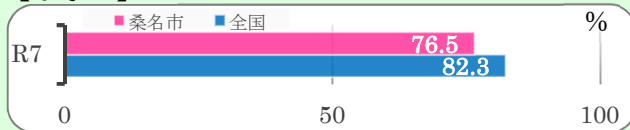


○自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する

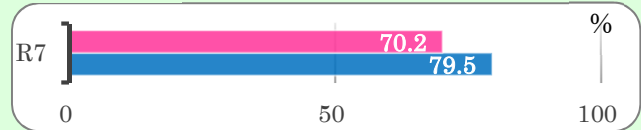
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒は、小中学生とも7割を超えています。が、全国平均を大きく下回っています。

■ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

【小学生】



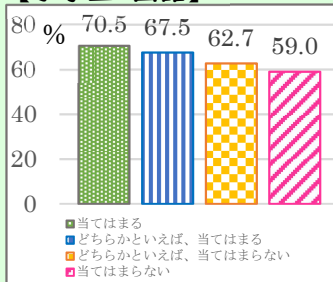
【中学生】



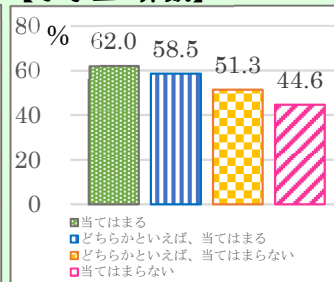
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

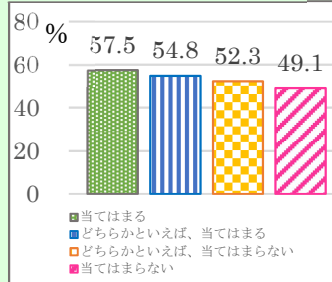
【小学生・国語】



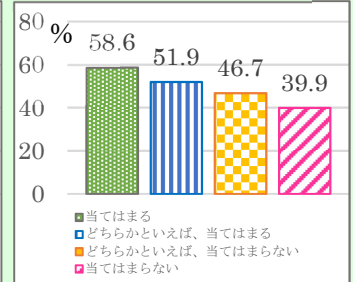
【小学生・算数】



【中学生・国語】



【中学生・数学】



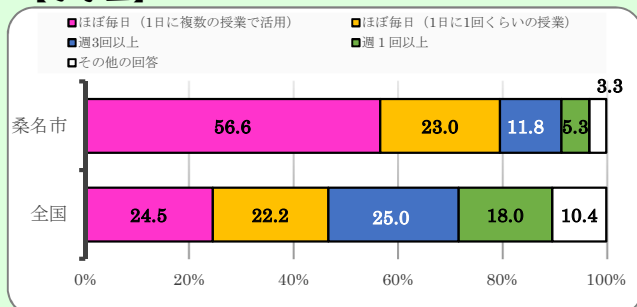
○ICT機器を効果的に活用することができる

桑名市では、1人1台端末を効果的に活用した授業を推進し、児童生徒の「わかった」「できた」という達成感を大切にしたい個別最適な学びに取り組んでいます。

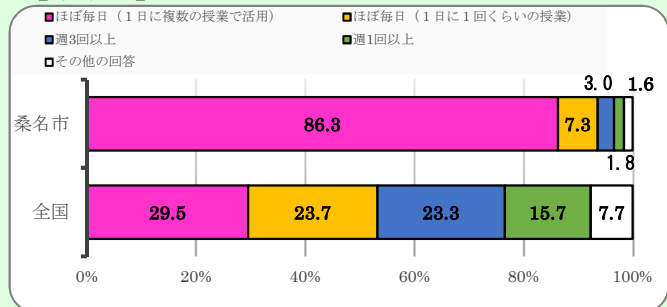
「授業でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用した」と回答している児童生徒の割合は、小中学生ともに令和3年度から全国平均を大きく上回っており、令和7年度調査では、特に「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」と回答した児童生徒は、小学生で全国平均の約2倍、中学生で全国平均の約3倍となっています。

■ 前年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

【小学生】

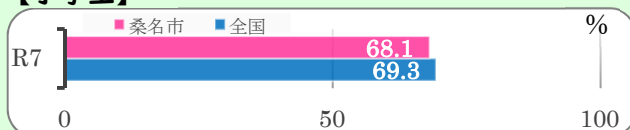


【中学生】

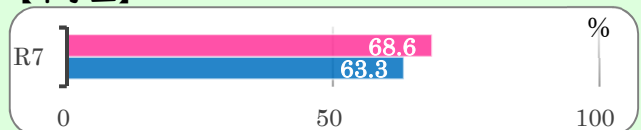


■ あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか

【小学生】

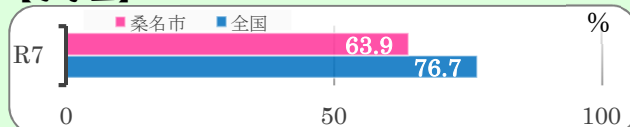


【中学生】

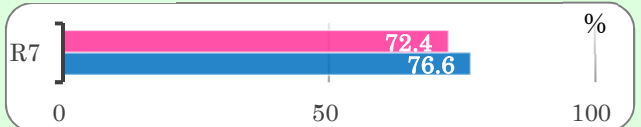


■ あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか

【小学生】



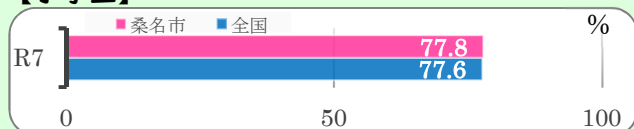
【中学生】



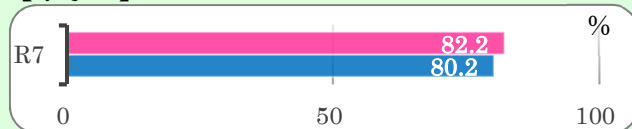
■ ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか

※中学生については、ICT 機器の活用に関する質問7項目のうち、無作為に出題された2項目に回答しています。

【小学生】



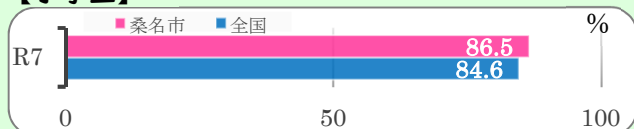
【中学生】



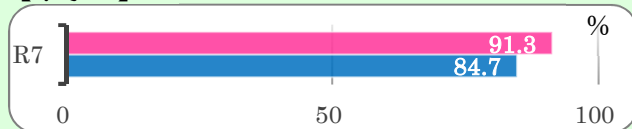
■ ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思いますか

※中学生については、ICT 機器の活用に関する質問7項目のうち、無作為に出題された2項目に回答しています。

【小学生】



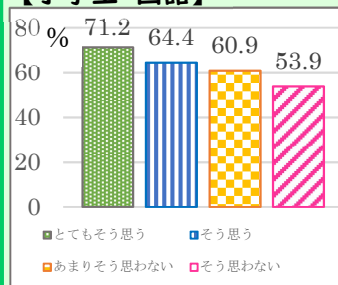
【中学生】



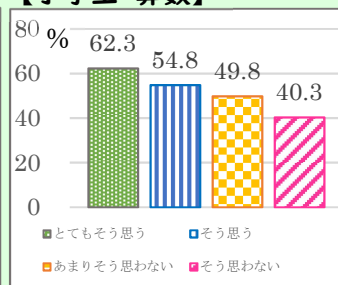
学習状況との相関について

学習状況との相関を示したグラフからは「ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

【小学生・国語】



【小学生・算数】



※中学生については、ICT 機器の活用に関する質問7項目のうち、無作為に出題された2項目に回答しているため、学習状況との相関を示したグラフはありません。

予測困難な社会を生きていくために、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って課題を解決していく力が必要となってきます。探究的な学びは、子ども自らが課題を設定し、情報を収集・分析し、自分なりの考えを表現する力を育む学習です。地域や社会をよりよくしていこうとする力も、探究的に学ぶ姿勢が求められています。

本市では、この探究的な学びの実現に向けて1人1台端末の効果的な活用を推進してきました。その成果として児童生徒もICT機器を活用することで「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と、探究的に学ぶツールとして効果的であると実感していることが分かります。

しかしながら「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」という問いや、ICT機器を使って「情報を整理する」「学校のプレゼンテーションを作成する」問いに対して全国平均を下回っていることから、ICT機器の活用率の高さが探究的な学びの要素とつながっていない結果となっています。

今後は「ICT機器の活用について意欲的である」という本市の強みを生かし、ICTを探究的に学ぶツールとして、効果的に活用できるような授業づくりを推進していきます。

また、子どもたちが自ら見つけた課題の解決に向け、身に付けた知識や技能を実生活で活用できる力を育む探究的学びを通して、子どもが主体となる学校教育を行い、児童生徒のウェルビーイングの向上につなげ、学力向上だけでなく、人間らしく豊かに生きていくための力を育んでいきます。

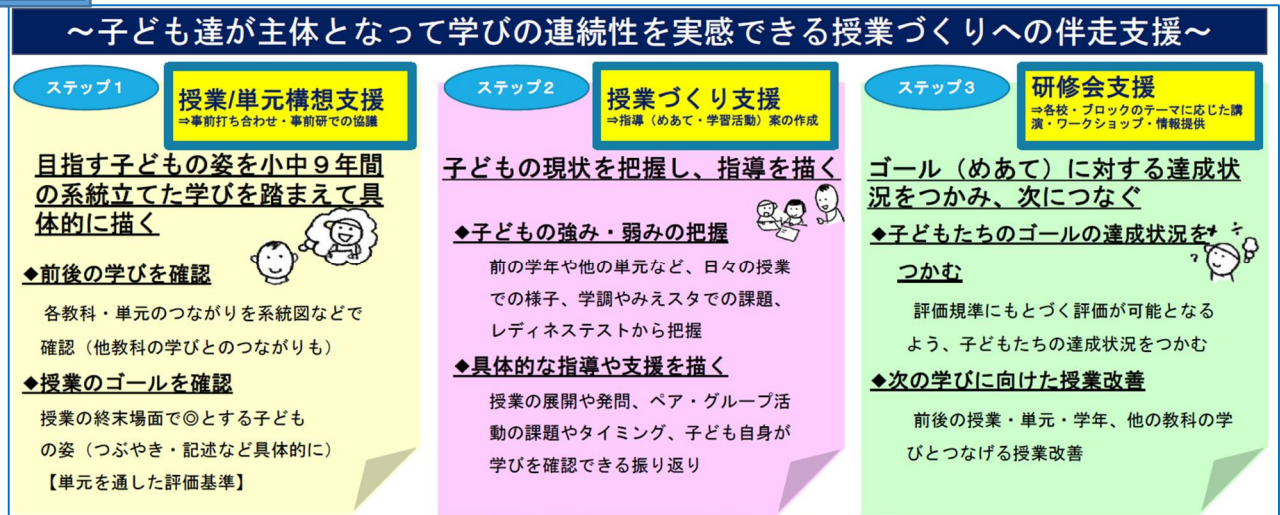
Ⅲ 桑名市の取組について

桑名市では、全市的に展開している小中一貫教育の市の重要項目として、

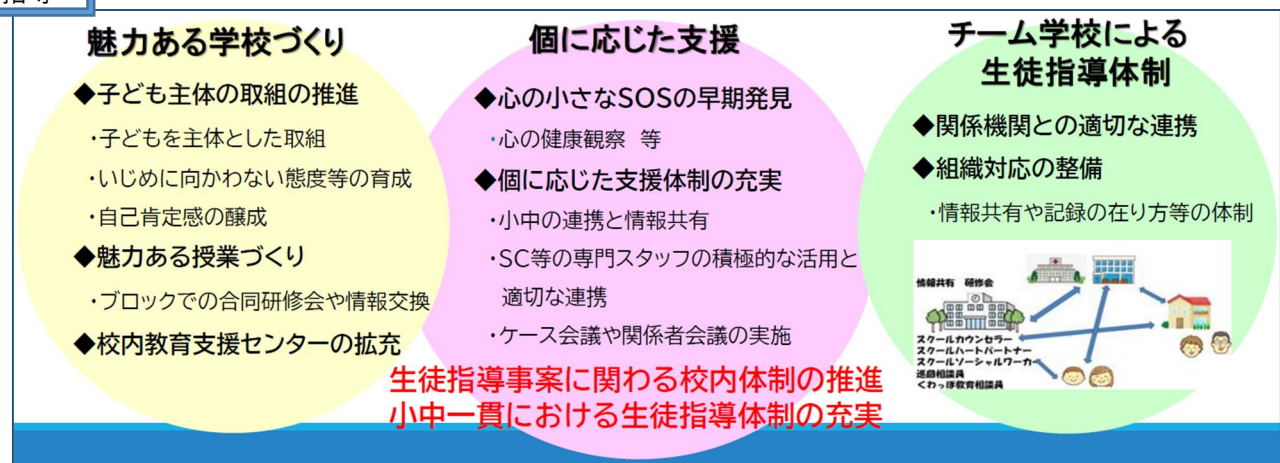
「一人ひとりの子どもを主語にした学び」「いじめ・不登校の未然防止と支援の充実」

の2つを掲げ、学習指導・生徒指導・人権教育の各視点から、継続的に取組を行い、子どもたちのウェルビーイングの実現を目指しています。

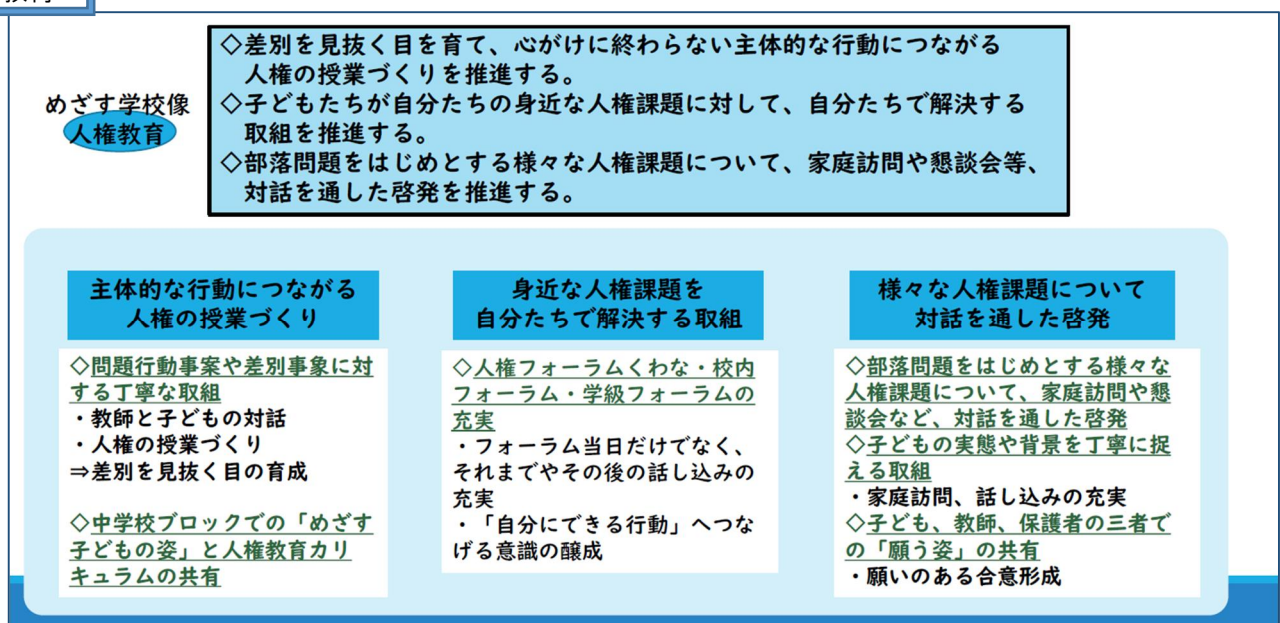
学習指導



生徒指導



人権教育



おわりに

桑名市教育大綱では「夢を持ち、その夢に向かって努力する子を育てること」を基本理念としています。また、令和2年度から小中一貫教育を導入し、9年間の縦のつながりを大切にした教育を進める中で、児童生徒一人一人に、これからの社会を生き抜くための確かな学力、社会と関わり他者と協働できる力、粘り強くじっくり取り組むことができる心と身体を育成しています。

本調査結果概要につきましては「令和7年度 全国学力・学習状況調査」について、7月末に文部科学省国立教育政策研究所から出された報告書を参考に、本市の児童生徒の学力や学習状況について分析結果や今後の方向性を取りまとめました。調査の結果においては、児童生徒の学力のすべてを表すものではないこと、学校における教育活動の一側面であることに留意しつつ、結果を踏まえ、今後の取組を進めていきます。

子どもたちの学力向上や健やかな成長には、子どもたちの学びの基盤となる日々の生活習慣を整えることも重要な要素の一つとなります。ご家庭では、睡眠や食事などをはじめとして、ぜひ子どもたちの生活リズムを整えていただければと思います。

また、本調査の結果から「自分には、良いところがある」と肯定的に捉えている子どもほど、学力が高くなる傾向が分かっています。ご家庭で一緒に過ごす際には、学校の様子をはじめとして、お子さんの声を聞いていただき、がんばりを認め、励ましてあげてください。

これからも、学校と家庭、地域が一体となって、桑名市の子どもたちの成長を見守り、支えていけるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。